文化的景観

別府の湯けむり・温泉地景観

別府市大字鉄輪及び大字鶴見字明礬、北中の各一部　約 45.7ha

国選定重要文化的景観

平成 24 年 9 月 19 日選定

市内では温泉が各地で湧出し、別府・浜脇・観海寺・堀田・明礬・鉄輪・柴石・亀川の各温泉地は「別府八湯」と総称される。平成 22 年 3 月末時点で、源泉数 2,307 か所、採取湯量毎分 87, 468 リットル、泉質は鉱泉分析法指針に基づく掲示用泉質 11 種類のうち 10 種類と、日本有数の温泉資源を誇る。市内各所で立ち上る湯けむりは、沸騰泉や噴気から噴出した水蒸気が凝結した細かい水滴で、本来は自然噴出であったが、観光業が発展する中で主に上総掘り、現在は機械掘りで掘削されるのに伴い、噴出する数と高さを増している。蒸気は一種のサウナである「蒸し湯」や、野菜や肉などを用いた「地獄蒸し」料理などに利用され、温泉資源を多面的かつ最大限に活用している。

温泉地としては、8 世紀の『豊後国風土記』で確認され、温泉の治療効果と神仏の信仰などが結びつく中で湯治場として成立していき、近世の貝原益軒などの紀行文にも記される。近代に入ると、瀬戸内航路の往来による近畿以西からの入湯客が増加し、観光地としての性格を強めていく。現在でも観光業を中心としたまちづくりが取り組まれている。

このうち、鉄輪地区は、地域の共同浴場と、それを利用する長期滞在客向けの「貸間」や旅館、商店がセットになる形で湯治場として発達し、地区の西側に集中する「地獄」を観光資源としていく。一方、明礬地区では、鶴見岳より噴出された角閃石安山岩（通称別府石）を用いた擁壁で整地された土地の上に、湯の花採取用の藁葺き小屋が立ち並ぶ。当地の湯の花は、地域で取れる青粘土に噴気を当て、析出した結晶を鏝で削り取るという、国の重要無形民俗文化財に指定される独特な製造技術を用いて作られる。

このように「別府の湯けむり・温泉地景観」は、地下の温泉資源を利用するため人間が自然に働きかけた結果形成された景観であり、文化的景観の定義を体現した一つの形と言える。

（事務局）